



issue:
350

2025 明治安田 J3 リーグ 第 21 節
7/21 (月 / 祝) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest
奈良クラブ

順位表 7/13現在

基本 20試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	栃木 C	43p	+14	32	18	A●
2	FC大阪	41p	+19	32	13	A△
3	八戸	40p	+14	27	13	H● A●
4	宮崎	35p	+8	27	19	H●
5	鹿児島	32p	+10	32	22	A●
6	奈良	30p	+3	26	23	A△
7	北九州	27p	-2	19	21	H○
8	松本	26p	-2	24	26	H△
9	金沢	26p	-2	22	24	H●
10	福島	26p	-11	32	43	A●
11	鳥取	25p	-3	16	19	A●
12	高知	25p	-5	30	35	H△
13	群馬	23p	-3	27	30	A△
14	栃木 SC	23p	-4	15	19	H●
15	琉球	22p	-5	17	22	A●
16	相模原	21p	-6	20	26	H△
17	長野	21p	-7	16	23	A○
18	讃岐	20p	-5	19	24	H○
19	沼津	18p	-2	18	20	H○
20	岐阜	18p	-11	23	34	--- ---

次回HomeGame

第24節 vs.福島ユナイテッド

8/24 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	全 5 試合 (J3: 5 試合) 岐阜0勝 / 奈良3勝 / 2分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 0勝1分1敗		
直近の対戦結果	2025/04/05 奈良 1-1 岐阜 得点者: 荒木大吾 J3 - 8 節 @ ロート F		
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/07/12 J3 - 20 節 @ プラスタ 八戸 5-1 岐阜 2025/07/06 J3 - 19 節 @ 長良川 岐阜 1-1 相模原 2025/06/28 J3 - 18 節 @ 沖縄県陸 琉球 1-0 岐阜	奈良 2025/07/12 J3 - 20 節 @ サンアル 松本 3-0 奈良 2025/07/05 J3 - 19 節 @ ロート F 奈良 4-0 北九州 2025/06/30 J3 - 18 節 @ 花園 FC大阪 1-1 奈良

●チームが不調から脱することができないまま前半戦を折り返し、後半戦に突入した J3 リーグ 2025 シーズン。かつてないほど苦しみ続ける FC 岐阜は 7/2 (水)、大島康明監督との契約を解除した。そして後任には、2023 シーズンに愛媛を J3 優勝に導き、5 月まで愛媛を指揮していた石丸清隆氏が就任した。ただし、実際の指揮は 7/12 (土) からで、シーズン前半最終戦、7/6 (日) 第 19 節・ホーム相模原戦は、大橋 HC が指揮を執ることに。試合は序盤から岐阜がペースを握ると、前半 6 分に #11 佐々木快のゴールで先制する。その後も岐阜が優位に試合を運ぶが、追加点を挙げられずにいると、後半に同点に追いつかれてしまう。決定機で決められない岐阜は、悔しい 1-1 での結果に終わった。そして、石丸新監督が指揮を執るシーズン後半戦の初戦、7/12 (日) 第 20 節・アウェイ八戸戦は、相手の走力に圧倒されて失点を重ねてしまい、1-5 と惨敗。石丸監督の初陣を飾ることはできなかった。

この 2 試合の結果、FC 岐阜の順位は 18 位から、ついに最下位 (= JFL 自動降格枠、J3 会員喪失枠が想定される) に陥落した。一般的に「残留ライン」と呼ばれる、『1 試合あたり勝点 1 の積み上げ』の基準から見ても、今の岐阜には勝点が足りていない。非常に悔しく不本意な状況だが、『一番底からは上がるだけ』と気持ちを新たに、チーム・フロントが一体となって現在の危機感を共有し、まずはこの『J3 残留争い』圏を脱するべく、あらゆる努力を尽くして欲しい。その一方で、順位表を見ると、シーズン後半戦に突入したにもかかわらず、勝点差 6 には 13 位・群馬までが、勝点差 9 には 7 位・北九州までが含まれているという、大混戦の状況だ。したがって、この順位からでも、チームが波に乗ることができれば J3 残留は十分に可能だし、そのためには勝利が何よりも必要だ。

なお、7/7 (月) から 8/20 (水) までは第 2 登録期間 (ウインドー) が開く。既に加入内定が発表されていたウィリアム・トギ選手とは正式契約に至らなかったが、そうである以上、今後はクラブがしっかりと選手を補強する手腕に期待したい。そして、次節 7/26 (土) 第 22 節・アウェイ松本戦以降、約 3 週間のリーグ中断期間がある。この中断期間に石丸監督の目指すサッカーを、しっかりとチームに落とし込んで欲しいと願う。

さて、今節の対戦相手は奈良クラブだ。J3 参入 2 シーズン目だった昨季は、4 季目だったフリアン・マリン・バサロ監督を 9 月に解任し、京都などで指揮を執った中田一三監督を招へいして立て直しを図るが、最終順位は 17 位。中田監督 2 季目体制となる今季は、比較的順調なペースで勝点を積み重ねていたが、6/6 (金)、トレーニング中の「不適切な行為」により中田監督が指揮を離れ、6/12 (木) には双方合意の下で契約を解除。後任には、昨季の富山を J2 昇格に導き、今季 5 月まで富山を指揮していた小田切道治監督が就任した。小田切監督が就任後の成績は、3 勝 1 分 1 敗・8 得点 5 失点と好調で、現在は 6 位。J3 残留争いをしている岐阜にとって、簡単な対戦相手ではない。

奈良との対戦成績は、岐阜の 2 分 3 敗・4 得点 8 失点と、奈良から勝利できていない。シーズン前半戦の対戦である、4/5 (土) 第 8 節アウェイ戦でも、何度も決定機があったにもかかわらず、決めきれずに 1-1 の引き分け。今節は、シーズン後半戦での石丸新体制での巻き返しのためにも、何としても奈良から初勝利を挙げなくてはならない。

奈良で最も警戒すべき選手には、直近 5 試合で 3 得点を挙げている #70 川谷凧を挙げる。清水から育成型期限付き移籍で加入した 22 歳は、右サイドをスピードのある突破でチャンスを作り、自らもゴールを決めて、好調なチームの原動力となっている。また、現在 6 得点を挙げている #23 岡田優希や、4 得点の #11 百田真登にも注意が必要だ。そして、中盤の #14 中島賢星は岐阜に在籍 (2017 年 ~ 2021 年) していた選手で、その FK にも警戒すべきだろう。いよいよ窮地に追い込まれてしまった FC 岐阜。しかし、まだ試合数は残されていて、巻き返すことは十分に可能だ。そんな状況にあるチームの特効薬は、やはり勝利しかない。その勝利に近づけるように、僕ら FC 岐阜サポーターは最後まで諦めることなく、チームの後押しを続けよう。時には叱咤激励しながらも、チャントや拍手で、走り続ける選手たちを鼓舞しよう。今節こそは、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、万歳四唱そして「HYPER CHANT」を、このホームスタジアム・長良川に響き渡らせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第19節】岐阜 1-1 相模原

●「今はこれが精一杯」（ルパン三世 カリオストロの城より）。大島氏の退任が発表され、大橋コーチが暫定で指揮を執るこの試合。果たしてどんな形を見せてくれるのだろうか。まず目に付いたのは、西谷亮。メンバー外の試合が続いて、本人も期するところがあったことだろう、キックオフ直後からペース配分など考えず、行けるとこまで行くといった激しい動きを見せ続ける。先制点もそんな彼の動きから。後方からのロングボールを上手く収めて、すかさず中央への折り返し。相模原 DF のスライディングも届かなかったボールは佐々木快の下へ。佐々木は GK の動きを見ながら、落ち着いて決めるだけだった。

ただ前述の通り明らかに飛ばしていた西谷、予定通りだったのかガス欠だったのかは分からないが、前半だけで退いてしまった。やはり彼がいるかいないかで現状の岐阜の攻撃のバリエーションが変わってくる。

そして同じく目立っていたのが文仁柱。この日は左 WB に配置され、水を得た魚のように伸び伸びとプレー。サイドからチャンスを演出し、自らも惜しいシュートを放つなどこの日のチーム一番の貢献度であったと思う。今まで右に置かれていてやりにくさもあったりしたのは、間違いなく大島氏の方針もあったんだろうなあ（苦笑）

気になったのは中盤でボールロストして、ショートカウンターを食らう場面がちらほらあったこと。集中を持続させることはなかなか容易ではないのは承知の上だが、この辺りは改善の余地ありかと。

次戦からは石丸新監督が指揮を取る。彼なりのスタイルを入れて、変わってくる部分もあるかもしれないが、まずは残留を確実なものにしていくことをお願いしたいところ。

あとウィリアム・トギはおそらくもうやって来ることはないであろう。もういなくなったものと割り切って、ウィンドウが開いている間に可能な限りの補強をフロントには求める。（岐阜の誇り）

●大島監督との契約が解除され、石丸監督への中継ぎで1試合限定で大橋 HC が指揮を執る試合。GK # 1 茂木秀が1年2か月ぶりにリーグ戦のスタメン、そして # 16 西谷亮も戻ってきた。そして試合は序盤から岐阜がペースを握る。一瞬、僕は4バックかと勘違いしたけれど3バックで、やっぱり現在のメンバーだと、この布陣が安定するのかも。そして、前半6分に # 16 西谷が右サイドを突破すると、折り返したボールを # 11 佐々木快がしっかりと沈めて先制点！ # 11 ササカイの“靴磨きパフォ”に現れてたように、ほとんど # 16 西谷の得点でした（笑）。それにしても、前節までとは打って変わってフォアプレスが効いていたし、1対1の場面でも身体を張ったプレーが目立った。特に、# 16 西谷の気迫と運動量はすさまじくて、しばらく試合に出られなかった鬱憤を晴らすかのよう。これで後半は保つのかしらと心配になってたら、やっぱりハーフタイムで交替（苦笑）。その後も岐阜が優勢に試合を運んでいたが、この試合では中盤でのボール奪取に貢献していた # 23 萩野滉大が下がったとき、僕は少し嫌な予感がした。すると悪い予感は当たってしまうもので、わずかな守備の隙を突かれて失点……（溜息）。ただし、失点後の円陣で気持ちを入れ直した岐阜の選手たちは、決勝点を挙げるべく、再び攻撃に重心を傾ける。決定機もあったんだけど……試合終盤の # 22 文仁柱のビッグチャンスは、ガッツポーズしかけて席から崩れ落ちました（苦笑）。ああいうのが決められないのが、今のウチの順位になってるんだよなあ……。実に悔しい引き分け。でも、選手たちの気迫はしっかりと感じる事ができた。こういう試合をシーズン後半戦でやり続けることができれば、もう少しマシな順位にいることができるんじゃないだろうか。（ささたく）

●この試合だけの代行監督。試合前には「結果だけしか意味がない試合だよなあ。」と思ってた中での勝ち点1。追いつか

れた分、終了後にはネガっぽくなったりもしないではなかったが、それ以上に「結果だけしか意味がない……」と思ってた試合内容にずいぶんと見どころがあって楽しかった。インジューを筆頭に、なんだか、みんなに躍動感。イキイキ、かつ、ノリノリでプレーしていた印象が残る。ただ、あまりにも奔放にやりすぎたせいか、シュートまでもがテンションアゲアゲになって、ボールが枠に収まらなかったのが残念だ。「枠だよ、枠！」と叫んだシュートが4本くらい。どれかが決まっていたらなあ。

でも、最低限の結果は出せたんだから、まあ、いいか、と思うことにしたい。さて、次節からが本番だ。残留しようね？ゼツタイに。（ぐん、）

●相模原にはハード・ラックな試合になってしまった。岐阜が大島監督のままだったら、普通に相模原が勝っていた試合だったと思う。

大橋ヘッドコーチの暫定指揮で大きな変更点がいくつか。まずは西谷の右前線での起用。6/7 アウェー鹿児島戦以来のスタメン。6/11 の天皇杯湘南戦でサブに入って以降はベンチ入りすら出来なかった選手が、まさに『噴いた』プレーを随所にみせ、先制点のアシストまで。ケガで戦列を離れていた選手がこれまでのプレーが出来るとは、にわかには信じがたい。もうひとつがムン君の左サイド起用。彼はももともとは左が主戦場だと思うのだけど、ここ最近では右にまわることが多かった。彼もまた、生き生きと、のびのびとプレーしていたように見えた。まあ、あのシュートはせめて枠に飛ばして欲しかったんだけどね（苦笑）。

嗚呼、これが『大島サッカー』だったのだな……と、前節までを振り返って思うってしまう。以下はあくまで推測だが、西谷は大島・前監督に「このサッカーでは勝てないと愚考します！」とか進言してしまって『干されて』いたのではないだろうか。大島・前監督は自身が連れてきたトヤマをどうしても！どうしても！（大事なことなので3回書きました）自分が使いたい左サイドで使いたくて、ムンくんを左から右に無理やりコンバートしていたのではないか。いやいや、だから全部推測ですってばよ〜っ（苦笑）。

実際、この日のチーム完成具合で上位陣と渡り合えたかと言ったら怪しいだろう。それでも、同程度の順位に沈んでいる相手だったら、ここまでのパフォーマンスが出せる、と。長良川に『わくわく』が戻ってきた！と感じたサポーターは多かったみたい。プロ興行はこうでなくちゃ。

でも、忘れちゃいけないのが、おそらく次のアウェー八戸戦からは石丸・新監督が指揮を取るということ。彼もまた「3枚のMFが流動的にどうたらああたら」信者である可能性もあるわけだ。なにせ、いまのフロントが選んだ新監督なのだから。そりゃいくらなんでも「今季は残留最優先、残留したら契約更新するから自分のサッカーは来季から」とオーダーしていると思いたいんだけどね……。こればかりは、蓋を開けてみないとわからない。それくらい、そう簡単にいまのフロントは信用できないんだよね。（吉田 Casting）

【第20節】八戸 5-1 岐阜

●いよいよシーズン後半戦の初戦。しかし、八戸のサッカー（と言うより石崎監督のサッカー）と岐阜のサッカーは、非常に相性が悪い。そして、人員や予算が限られたチーム状況の中で、現在 J3 の上位にいるチームの多くは、八戸のように豊富な運動量で相手を上回るサッカーだ。そこで、試合に慎重に入ろうとした岐阜だったが、キックオフから一気にトップギアに入れてきた八戸の攻撃に飲まれてミスをして、わずか開始11秒で失点……（溜息）。その後も八戸の選手たちの出足は鋭く、複数名で次々とプレスをかけてくる。このプレスを素早く正確なパス交換か、ドリブルあるいはデュエルなど個人技でかわすことができれば、岐阜のチャンスになるんだけど、それができずにボールを後ろに下げてしまい、さらにブ

レスで押し込められてしまう。選手が走り回ることプレーの精度やスペースを埋める八戸と、ボールを回すことで何とか打開しようとする岐阜。そして、J3では、多くの試合で前者の方が有効だ。これがJ1の選手だったら、八戸のプレスを手軽にかわしちゃうだろう。しかし、岐阜は中盤でボールがキープできずに奪われて、ショートカウンターを浴びてしまう。相模原戦で見られたような、迫力のあるプレーも姿を潜めてしまった。セットプレーで1点を返したものの、次々と失点を重ねてしまい、結果は1-5の惨敗。

結果でもシュート数でもプレーの強度でも、八戸が上だった。たまたまこの試合だけだ、と言えれば良いのだけど、昨季のアウェイ対戦でも惨敗(8/17(土)第24節。1-4)。そもそも、石崎監督(2023年に八戸の監督に就任)になった八戸との対戦成績は、1勝5敗・6得点14失点。根本的な対策を採らないとダメな気がしていますし、着実に積み上げてきたチームとの差を感じました。一方で、この試合から指揮を執った石丸監督のコメントを読むと、僕は『準備する時間が無かったので、あまり戦術的には準備せず、選手個人の能力や適性を試しました』と言っているように思えた。この敗戦が、今後のシーズン後半戦の勝利に繋がるものであると信じたいものです。(ささたく)

●それにしても寒かった。風も気温も試合の内容も。もう、何もかも、がね。指揮官が代わるとこんなに変わる。前節もそう思ったんだけど、今回は悪い意味でそうってしまったのが残念だ。でも、そんなことを理由にする以前の試合内容と結果。完敗とはこのコトか。一対一で負け、ルーズボールへの走力で負け、プレスでも、パスの繋ぎでも劣ってたら、そりゃ、こうなるさ。

目指すモノをきっちり見極め、確かな土台の上に積み重ねられた実績。カテゴリーのレベルと自らの実力を冷静に判断して、能力と経験値の高い指揮官に委ねた結果だね。羨ましいよ。どっかのクラブに、そのうちのひとつくらい備わってたらなあ。

石丸さんもビックリしてるんじゃないかな？ここまでやらなきゃいけないコトが出来てないなんて、と。せめて、監督を引き受けたコトを後悔してませんように。でも、逆に考えれば、自分の好きなように出来るからね。幸い、松本戦後にインターバルがある。巻き返しを期待してます。(ぐん、)

●現地で観ていたばくは、この試合は開始11秒で決まってしまった……とすら思ってしまった。たしかにカイケンが出っぱなしで疲れているからね、自陣ゴール前でのハイボールはバウンドさせてはいけない(アクシデントが起きやすい)という守備の鉄則を忘れてしまったのだろう。とはいえ、最初から1点のハンデキャップを受けてしまったような展開では、なかなか厳しい。

その後の2失点も結構残念なモノで、岐阜の選手のボール・コントロールの甘さ、軽さは八戸攻撃陣の格好の『獲物』にされていた。特に狙われたのは大串で、2失点とも彼が『失点の起点』になってしまった。前半で交代になるのは当然か。後半も、岐阜の見どころは八戸守備陣がミスをした時だけ(それもササカイが早めに撃ってしまっってチャンスを逃す)。守備はさらに2失点。要するに『やられたい放題』の90分だったわけだ。でも、悔しいけれど文句はない。いまの岐阜と八戸の間に「1対5」程度の差はある。それが正しくカタチになって出ただけだ。前半、0-2からノザリクのヘッドで1点を返してから3失点めまでの時間帯が、微かに「夢」を抱けた時間帯だった。

ばくは、石丸監督がこの試合を「テスト」マッチに使った可能性があると思っていた。言い方は悪いが、ガチに勝ちに来ていないのではないかと。石丸監督は魔法使いでもないし、選手にチート・スキルを付与する使い手でもない。状態ダダ下ガリのチームを初の実戦で上向きには出来ても、そこから「結果」まで昇華させることはむずかしいだろう、と。

でも、それでいいとも思っていた。仮に、この試合で石丸監督が「5-4-1でべったり、勝ち点1上等のカウンター狙い」をやったとしよう。たしかに勝ち点1は獲れるかもしれない。もしかしたら、ラックにラックが上乗せされて勝ち点3になるかもしれない。でも、それで「今後も勝ち点3を獲るサッカー」は作れないだろう。残留に必要なのは、勝ち点3を獲れる相手からは確実に獲り、それを積み重ねていくサッカーだ。「今日の勝ち点1より、近い将来の勝ち点3(複数)」。ならば、この試合は「いまのチームで出来ること」「出来ないこと」の実戦経験による振り分けに使ってもいいのではないかと。そしたら、試合後の石丸監督のコメントに「出来ること、出来ないことがわかった」との言葉があって、ぼくは深めに安心したという次第。

今後、岐阜は上位陣との対戦が続く。当たり前だ、最下位なのだから、相手は全部上位陣だ。でもその中でも「かなりハード」「ハード」「互角に行けるか」というカテゴリーは出来るだろう。互角に行けるところには確実に勝ち、ハードな相手にも喰らいついて勝ち点を1でも得る。そのための指標として、「かなりハード」に分類される八戸に(同カテゴリーなだから相応しくない表現かもしれないけど、敢えて)『胸を借りた』と考えたら、得失点差-4を喰らって最下位転落もそんなに悪い投資ではないのかもしれない。下を視ても残留は勝ち取れない。ポジティブ・シンキングで行こう。すべてはこれからだ。(吉田鋳造)

監督が「5-4-1でべったり、勝ち点1上等のカウンター狙い」をやったとしよう。たしかに勝ち点1は獲れるかもしれない。もしかしたら、ラックにラックが上乗せされて勝ち点3になるかもしれない。でも、それで「今後も勝ち点3を獲るサッカー」は作れないだろう。残留に必要なのは、勝ち点3を獲れる相手からは確実に獲り、それを積み重ねていくサッカーだ。「今日の勝ち点1より、近い将来の勝ち点3(複数)」。ならば、この試合は「いまのチームで出来ること」「出来ないこと」の実戦経験による振り分けに使ってもいいのではないかと。そしたら、試合後の石丸監督のコメントに「出来ること、出来ないことがわかった」との言葉があって、ぼくは深めに安心したという次第。

今後、岐阜は上位陣との対戦が続く。当たり前だ、最下位なのだから、相手は全部上位陣だ。でもその中でも「かなりハード」「ハード」「互角に行けるか」というカテゴリーは出来るだろう。互角に行けるところには確実に勝ち、ハードな相手にも喰らいついて勝ち点を1でも得る。そのための指標として、「かなりハード」に分類される八戸に(同カテゴリーなだから相応しくない表現かもしれないけど、敢えて)『胸を借りた』と考えたら、得失点差-4を喰らって最下位転落もそんなに悪い投資ではないのかもしれない。下を視ても残留は勝ち取れない。ポジティブ・シンキングで行こう。すべてはこれからだ。(吉田鋳造)

現時点の JFL の状況。

●第16節終了時点です。数字は吉田鋳造が集計しました。平均入場者数は端数切り捨て。

1位：滋賀	勝ち点 31	◆ライセンス申請済	1,914 人
2位：沖縄	勝ち点 31		
3位：Honda	勝ち点 30		
4位：青森	勝ち点 30	◆ライセンス申請済	1,889 人
5位：V大分	勝ち点 29	◆ライセンス申請済	1,180 人
6位：枚方	勝ち点 25		
7位：浦安	勝ち点 24	◆ライセンス申請済	601 人
8位：岩手	勝ち点 21	ライセンス未確認	1,609 人
9位：鈴鹿	勝ち点 20	◆ライセンス申請済	1,273 人

ライセンスというのはクラブの経営・運営の指標なので、よほどの問題がなければ前年度に通っていたところは通ります。岩手は公式サイトでは申請の有無は公開されてないですが、たぶん出しているでしょう。

注目は青森。7/12から地元・青森でホーム3連戦、ここで一気に集客を！とチカラを入れた効果か、7/12の横河戦では3,047人の観客を集めました(同日ほぼ同時刻開催の八戸 vs 岐阜は2,024人)。1試合平均2,000人の観客動員ハードルのクリアも見えてきました。試合も1-0で勝利。スタジアムは「百年構想クラブ」申請時に新青森県総合運動公園陸上競技場で認定されているので問題なさそう。滋賀は連勝で一気に首位に。ここも観客動員ハードルのクリアまであと少し。スタジアムはHATOスタ(滋賀国体のメイン会場)で問題ない。滋賀と青森は今季JFLで2位以内に入る可能性があり、仮にどちらも2位以内&どちらも平均入場者数2,000人をクリアすると、J3最下位は(昨季の岩手のように)自動降格、J3の19位は(昨季のYS横浜のように)JFL2位との入替戦となります。どちらか1つがJFL2位以内だとしても、その1つがJFL優勝の場合はJ3最下位は自動降格。JFL2位だとJ3最下位は入替戦です。

さらに。来季(来年後半)からは『秋春制』となり、もし今季末の結果でJFLに降格となると、再昇格がいつになるかわかりません(2026年9月~2027年5月or6月のJFLとJ3との入替については決定していない)。まあ、とにかくとんでもない事態になるわけです。(編集人・吉田鋳造)